

「ITによる産業の高次化」像 2010年5月に経済産業省が発表した「情報経済革新戦略」より

内容

- 今後はあらゆるモノとモノ、モノと人が結びつく
- ITによってあらゆる情報を有効活用し、農業・製造業・サービスを高次化（1.5次、2.5次、3.5次産業化）するとともに、その先にある社会システムの革新を実現

産業の高次化のうち、政策にて対応するもの

- IT経営の推進
- 製造・物流業の高次化：組込みソフトの標準化・信頼性向上、ビジネスインフラの構築
- 商取引の高次化：インターネット上の取引ルールの整備、国際的な電子商取引基盤の整備
- 中小・ベンチャーの高次化：中小企業、サービス業のIT化支援
- 農業・医療産業の高次化

今を飛び越す

特集

—ビジネスを広げ、質を高めるモバイル活用—



企業が成長を続けるには、従来の仕事の枠組みにとらわれず、新しい仕事のやり方を取り入れ、新しい価値を創造していく姿勢が求められる。この「新しさ」を実現するために、身近なITツールであるモバイルが存在感を見せている。

情報システムの活用コストは低減し、ネットワークの通信速度は劇的に速く・料金は安くなっている。にもかかわらず、経営に十分に活用されていないという事実だ。

さらに、ITを「持たずに使う」クラウドコンピューティングによって、企業側は、従来以上に必要なシステムを手軽に使えるようになる。

では、「情報通信コストの劇的低減」を使って企業は何をしていくべきなのか。「情報経済革新戦略」の提唱の一つは「複合新産業の創出」である。

例えば農業分野なら、品種改良や栽培履歴データの活用で、売れる商品の出荷、生産性の向上などを実現できる。第1次産業は人の経験や勘をもとに生産精度を高めるものという固定概念にとらわれず、「1.5次化」して事業に取り組みという考え方だ。

身近なITツール モバイルがもたらすもの

「農業中にパソコンは見られませんから携帯電話は必須です」
こう話すのは北海道ニセコ町で農業を営む三浦裕一氏（ニセコビュープラザ直売会会長）である。携帯電話が使えないと売れるものを逃しますから」と笑う。ニセコでは、生産者が直売会を作り、道の駅での農産物・加工品の販売や、企業との直接取引を行っている。「生産+小売」である。直売会にまとまった数量の注文

が入った場合は、出荷可能な生産者を携帯電話で探す。もちろん、1軒ずつ電話をかけるのではなく、条件に合った生産者のリストに従ってメールが一斉配信されるのだ。出荷可能な生産者は数量を打ち込み、正式発注の連絡を待つ仕組みだ。

このシステムがパソコンのみの対応だったなら、素早く回答する体制はとれなかっただろう。

ITツールの一つとして近年注目を浴びているモバイル（携帯電話やスマートフォンなど）は、いつでもどこでも情報をやり取りできることから、業務効率化の手段として浸透してきた。最近はこちらに加え、モバイルの特性を活かして新しい仕組みや新しいビジネスを作り出す動きも活発だ。

モバイルコンピューティング推進コンソーシアム（MCPIC）が今春発表した「MCPIC Award 2010」の受賞企業には、通信モジュール（デジタル機器に取り付けデータ通信を行う）を上手に用いて今までにないサービスを開発する企業が見受けられる。

「すっきりしない感覚」が残ったままの日本経済。培ってきた信用は損なわれていないし従業員ははじめに働いているが、確かな手ごたえを得られるにはもう少し…、というところかもしれない。

デジタル化やグローバル化、そして社会構造の変化が驚異的なスピードで進んでおり、同じ事業を同じ形で継続しているだけでは成長が期待できない。場合によっては、時代に取り残され危機的状況に陥るだろう。

企業は今、ここをどう飛び越えるかの判断を迫られている。

1次産業は1.5次産業へ？ 求められる複合新産業創出

経済産業省はこの5月に「情報経済革新戦略」を発表した。副題には「情報通信コストの劇的低減を前提とした複合新産業の創出と社会システム構造の改革」とある。

ここでは、諸外国と比べて日本の労働生産性の低さ（2008年OECD加盟30か国中20位）、またIT投資の質も量も不足していることが報告されている。

一方、「中小企業IT経営力大賞2010」で審査委員会奨励賞を受賞した福島県の鉄筋工事業・古山鉄筋工業所は、複数工事の進行を円滑に行い最適な人員配置を実現するために、携帯電話のカメラで現場の様子を写し、従業員と本社が密にコミュニケーションを取れるようにした。操作が簡単なので、現場のIT機器としてあつという間に定着したそうだ。

人と人、人とモノ、モノとモノが無縁でつながる時代、今までなら難しかったことも簡単に実現できる可能性がある。

本特集ではITツールの一つとして独自の光を放つモバイルをテーマに、①ビジネスの拡大にモバイルを上手に取り入れた事例、②「MCPIC Award 2010」に見られる最新事例の傾向、③IT経営に取り組み企業がモバイルをプラスすることによってさらなる効果を上げた事例、そしてモバイル関連の製品・サービスを紹介していく。

従来の枠にとられない新しい価値の創出へ、一つのヒントにしてほしい。